

屋間はようやく暖かくなりましたが、朝晩は少し冷える日もある札幌です。北海道では休耕地を利用し、町おこしの一環として菜の花を植える取り組みを行っている市町村があります。中でも滝川市と安平町が有名で、今回私は安平町へと出かけてきました。

5月中旬～6月上旬が見ごろと聞き、5月下旬の土曜日に出かけました。駐車場の『道の駅あびら』は新千歳空港から40分位の場所で、午前11時前に到着するも駐車場はすでに一杯、道路には50台以上の車が並ぶ状況でした。駐車を断念し、別の駐車場を探した所800m程先で見つけ、そこから歩く事になりました。

のんびり20分程歩き、いよいよ道の駅に到着。菜の花マップを見ると道の駅近くに一番広い菜の花畑がありました。向かうと目の前の一面全てが菜の花の景色になり、圧倒される美しさでした。しばらく写真を撮りながら黄色一面を眺めていました。

他にも7ヶ所の菜の花畑があり、7～8分歩くとこちらも見事な菜の花畑がありました。最初に一番の菜の花畑を見ましたので満足し、道の駅へ入ると何とD51機関車が展示されており、側でしばし眺め、大満足な気分で見上げる事となりました。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

久しぶりの川越。アフターコロナになったことで、メイン通りは観光客で大賑わいです。小江戸と呼ばれるだけあり、外国人観光客が和服姿で歩いています。また、食べ歩きのできる美味しい食べ物屋さんも軒並み家族連れや仲よし同志で賑わっており、川越の人気の高さは相変わらず安定していたといったところです。

さて、ここ川越で人気のさつまいもスイーツをご紹介します。川越といえばさつまいもスイーツが有名だと思いますが、それはなんと江戸時代からだそうです。今回立ち寄らせていただいたお店は、『高級芋菓子しみず』の小江戸川越店です。しみずさんは大阪福島区からスタートし、今では築地に本店があり、全国展開しているさつまいもスイーツ店です。

築地ではいつも行列で、買うのもしんどかったのであらかじめいたのですが、川越では多数の人気お芋スイーツ店があるため競争も激しく、並ぶことなく入れました。時間帯も夕方近かったためかもしれないですが、店内も3組ほどでラッキーでした。

今回は『しみずの贅沢「芋」パフェ』のプレーンタイプ¥1200と勿論ホットコーヒーも付けました。店員さんのおすすめは『シルクスイート』という品種のさつまいもでしたが、今回はそんなおすすめを跳ねのけてからのパフェとしました。普通においしかったです。次はシルクスイートをいただきたいと思います。さつまいもは間違いありませんね。

東日本物流センター東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)

KOYORAD

世界の拠点から
- From the base in the world -



昔の道の駅はドライブ中のトイレ休憩の場所と言うイメージ。しかし現在ではドライブの目的地として行かれる方も多いと思います。今回は、『神戸フルーツ・フラワーパーク大沢』をご紹介します。ここは道の駅ではありませんが、売店やフードコートのみならず、遊園地やモンキーズ劇場、ホテルまで完備されています。

地産地消でファームサーカス・マーケットでは近隣の農家から届いた新鮮な野菜を購入する事ができ、セレクトショップには地元神戸ワインが並んでおります。中には2019年のG20大阪サミット首脳夕食会で提供された神戸ワイン『ベネディクションルージュ』も販売されております。

当時の大統領、D・トランプさんのワインを嗜まれているポスターの下で販売されているので非常に目立ちます。

場所によってはヨーロッパ調の石畳と建物で旅行気分もちょっとと味わえ、中は非常に広いので散歩するだけで良い運動にもなります。近いので今後もちょこちょこ寄らせて頂こうと思います。



大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

皆さんは大垣のわさびをご存じでしょうか。わさびの産地といえば、長野県・安曇野や静岡県・伊豆のイメージが強いですが、岐阜県の大垣市でもわさびを栽培しているそうです。(私も初めて知りました…)『名水わさび』という栽培業者があり、『真妻わさび』という品種を栽培・販売しています。

もともと大垣は水の都と言われ、地下水が豊富で市内に湧水スポットが多く設置されています。この湧水の水温は真夏でも真冬でも年間通して13℃前後で、わさびの栽培に適しているそうです。また名水わさびのわさびは水へのこだわりだけでなく、無農薬で肥料を使用せず栽培しているそうです。

ここが栽培している真妻わさびは、わさびの中でも高級品種で、強い辛みの中にまろやかな甘みがあり、豊かな香りが特徴です。他の品種は育成期間が1～1年半なのに対して、真妻わさびは2～3年かかるそうです。時間がかかるところが高級品種らしいですね…。

取り寄せもできるので、大垣のわさびを一度試されてはいかがでしょうか。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

梅雨の晴れ間に、夏の気配を感じられるようになりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年の夏は、コロナウィルス感染症が5類移行となり、初めての繁忙期を迎えることとなります。コロナは収束し、沢山の仕事に取り組めるようになるよう心より祈りたいと思います。

さて、今回は福岡市東区で有名なパン屋さんの『ナガタパン』をご紹介します。知人から前々から聞いていた有名なパン屋さんですが、実は一度も訪れたことがなく…。菅崎宮近くに用事があったので行ってきました。

店舗は昭和を思い浮かべるレトロ感が満載で、とても懐かしい雰囲気です。店内に入ると、有名店だけあって行列ができていた状態でした。やつとこのことで順番が回ってきたので、陳列ケースに並べられているパンを店員さんに注文!!お目当てはめんたいフランスのみ!でしたが、人間の欲には勝てず、なんだかんだと15個ほど注文してしまいました(笑)。2階のイートインスペースでゆっくりと頂く予定でしたが、お昼時ということもあってか満席状態であえなく断念。家に持ち帰り、ゆっくりと味わっていただきました。

ちなみにこの『ナガタパン』は福岡県春日市が本店で、独立店がここ東区にある箱崎店、那珂川店、鳥飼店とあります。お近くにお越しの際には一度お立ち寄りになられてはいかがでしょうか。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

月に一度か二度、休日に友達とゴルフをします。ゴルフの予定がなければ、朝の7時～8時頃に1時間ほど家内とジョギングをしています。今まで行っていた運動はゴルフかジョギングでしたが、最近近所の人たちに別の運動に誘われました。卓球とバドミントンです。

卓球とバドミントンは学生時代に毎週やっていたのですが、社会人になってからは仕事が忙しく、やらなくなっていました。15年以上していませんでしたが、近所の人からの誘いで土曜日の朝8時から約2時間バドミントンを始めました。

日曜日には卓球をしています。卓球とバドミントンで使用する筋肉は、ゴルフで使う筋肉とは違います。そのため卓球の場合は筋肉の疲れを少し感じ、バドミントンの場合はさらに筋肉に疲れと苦しみを感じました。

家に戻り、歩けないくらいの疲れで倒れ、シャワーを浴びてから2時間ぐらゐ寝込んでいました。昼ご飯を食べてからは、マッサージ屋さんに行き、1時間半ほどたっぷりマッサージしていただきました。

これから毎週末バドミントンに誘われることに備え、バドミントンの動画を見て、先生のアドバイスに従いながら本格的に特訓を始めています。近所の人たちには2週間ぐらゐ時間をください、次またやるときは負けないよと冗談を言いました。

今週末にまたバドミントンをやります。早く特訓の成果を見せたくて楽しみにしています。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

～あの時買っておけばなあ～

15年前は7千元(約14万円)、今では6万元(約120万円)。これ、蘇州でのマンション1平米の価格です。中国の都市部の不動産価格はこの20年で驚くほど上がっています。これまでの経済成長とともに、不動産価格も急激に上昇し、公共事業による立ち退きの要請で巨額の資産を得た人もたくさんいます。

私が2005年に赴任した当時は蘇州の比較的高級なマンションでも1平米7,000元(約14万円)前後だったのが今やその10倍前後になっており、買う余裕などなかったとはいえ「あの時買っておけばなあ」とため息が出てしまいます。

急激な高騰の中、政府もこれまで何度も規制策を施してきました。所有できる物件数、頭金の積み増し、投機目的での購入規制などの政策です。ところが昨今では都市部を中心に価格の下落もみられ、昔買った物件が今や10倍、でも買い手が見つからない、という話も多く聞かれます。大都市では日本円で億単位のマンションはもはや当たり前と言えるくらいですが、竣工前のプレセールの不振や商業ビルの空き店舗増加なども問題化しています。不動産バブル危機も一部ではささやかれています。

額がケタ違いで縁のない世界ですが、広大な市場の中国では不動産価格の推移もこの先ダイナミックな動きを続けていくことは間違いなさそうです。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

皆様いかがお過ごしでしょうか?日本は梅雨入りした季節になっていると思いますが、カリフォルニアでは梅雨はありませんので基本過ごしやすい気候です。そんな中、米国伝統の自動車レース、『第107回インディアナポリス500マイル(通称インディ500)』の決勝レースが5月28日に行われました。

インディ500はアメリカのインディアナ州で毎年5月最終月曜日(メモリアルデー)の前日の日曜日に開催されます。初開催は1911年とその歴史は古く、今年2023年で107回目を迎えます。インディ500は『モナコGP』と『ル・マン24時間レース』と並ぶ『世界三大レース』に数えられています。

ご存知の方も多いと思いますが、インディ500はインディアナポリス・モーター・スピードウェイのオーバルコースで行われます。オーバルは

シンプルな楕円形状のコースでF1サーキットとは全く違うレースです。一周2.5マイル(約4km)のコースを200周、つまり500マイルを走行するためインディ500と呼ばれています。周回平均速度は354km/hを超え、これは世界の周回レースカテゴリーの中でも最も速いとされます。

日本人では1991年のヒロ松下が初参加して以降合計10人の日本人ドライバーが挑戦しています。初優勝を飾ったのは2017年の佐藤琢磨です。その後2020年のコロナ禍での開催でも優勝しましたね。その佐藤選手ですが今年は3年ぶり3度目の優勝を目指しましたが残念ながら7位という結果でした。

KCS(アメリカ)(COO:板垣 仁志)

お客様の展示会のサポートのため、約3年ぶりに出張でベトナムのホーチミンへ行きました。着陸して飛行機から降りた瞬間の第一印象は暑いです。シンガポールよりも暑いと感じました。街はあまり変わっていませんでした。コロナウイルスが流行する前からあった多くの飲食店は今も変わらず営業していました。

そんなベトナムの街で驚くべきことの一つに、ベトナムのコーヒー産業がスターバックスのような大手コーヒーチェーンと競合し、成功していることが挙げられます。地元のコーヒーショップを見つけるのは非常に簡単ですが、通りにコーヒーショップがほとんどない場合もあります。週末の朝には多くの地元の人がコーヒーショップの前で飲み物や会話を楽しんでいる姿が見られます。

他の東南アジア諸国では、地元のコーヒー産業がこれほど優勢である姿を見たことがありません。大手コーヒーチェーンに顧客の心を掴むチャンスはない。そういった意味で、私はベトナム人を称賛し、敬意を表しています。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

インフレが世界的な問題となっている今、毎月あらゆるものが高価になっています。生活費の高騰に伴い、従業員の給料も市場に追いつくために上がっていきます。これは製品の原価にも影響を与えるため、さらに物価は上昇するでしょう。それは各経済の悪循環です。一部の企業はこの状況を悪用し、より高い利益を得るために値上げし、その結果、さらに高いインフレが発生しています。

数十年で変わったことの一つに、経済の焦点があります。以前はリピーターが生まれるよう、良いサービスを提供することが非常に重要でしたが、現在はポケットからできるだけ多くのお金を引き出すことに焦点が当てられています。

ファストフード部門を例に挙げると、以前は無料のソース、おかわり、低価格など、いくつかの特典が提供されていましたが、現在はすべて有料になり、コストの増加で価格はさらに上昇しています。店側は客にできるだけ多くのお金を使ってもらい、できるだけ早く帰ってほしいと思いますが、そのためのサービスは提供されていません。銀行、保険、エネルギー、食料品、政府、スポーツなど、すべてが同じです。

この変化は企業だけが責任を負っているわけではなく、消費者も関与しています。高収入で楽な仕事や最高品質で最低価格などを求めますが、それは不可能です。結論を言えば、人々の貪欲さがほとんどの問題を引き起こしています。

もし私たちが物事の全体像を捉え、考えることができれば世界はもっと良い場所になるでしょう。ですが、個人の数が多いため、残念ながらこれは希望的観測にしかなりません。ありのままを受け入れ、自分自身が生み出している問題に対処しなければなりません。

KIO(オランダ)(Ferri Visser)